

従業員とともに

人権啓発活動

「大成ロテック企業行動規範」で基本的な人権の尊重を掲げ、社長を委員長とした人権啓発協議会を設置して、差別のない社会の実現とハラスメントのない良好な職場環境づくりを推進しています。また、人権啓発研修会の実施はもとよ

り各社内研修のカリキュラムにも人権研修を組み入れ、さらにイントラネット上での「人権啓発のしおり」の掲載や、各事業場にハラスメントに関する相談員を配置するなど、従業員に対し人権に対する意識の向上を図っています。

人材開発教育活動

新入社員研修に始まり階層別研修や各種専門研修、資格試験対策研修を体系的に実施し、OJT教育、通信教育制度などと合わせて、従業員の成長をバックアップしています。

●新入社員研修

社内諸規程の説明やビジネスマナー、現場見学など大成ロテックの社員として求められる基本を学びます。

●工事担当者研修(初級・中級・上級)

施工管理業務に必要な施工計画書、実施予算書作成のポイントや安全、人権、コンプライアンスについてまで幅広く学びます。

●新任課長格研修

リーダーとしての資質、条件を再認識し、自己革新のための動機付け、および具体的な行動のための切口を学びます。

●その他各所長研修、プレゼン研修等

ワークライフバランス

舗装・土木工事の現場においては、天候や道路事情などにより作業の進捗が左右されることが多く過重労働となる場合があるため、心とからだの健康管理の面から必要に応じて産業医による健康相談の実施や医師による面接を行っています。また、勤続15年、25年を迎えた社員にリフレッシュ休暇を付与する制度や、ゴールデンウィーク、夏期、年末年

始には9日程度の連続休暇となるよう休日を設定しています。さらに仕事と子育てを両立させ、その能力を十分に発揮できるように次世代育成支援対策推進法に基づく「一般事業主行動計画」の策定や、出産・育児や介護に係る休業・休暇制度の整備など、あらゆる面においてワークライフバランスが実現できるよう取り組んでいます。

アスファルト合材工場における資質向上研修会開催

平成25年2月、仙台東アスコンにて主に女性従業員を対象とした研修会を行いました。午前の産業廃棄物研修には、仙台市役所産業廃棄物指導課3名、午後のフロントサービス研修には、外部講師をお招きし、社内社外合わせて29名受講しました。

●産業廃棄物研修

産業廃棄物の適正処理のためにということで、廃棄物の処理の流れ、マニフェストの交付・記載の仕方、建設産業廃棄物処理委託契約書の記載の仕方等説明を受けました。



また、今回は特に実務に沿った形で説明を受けたことにより、より多くの質疑応答があり、密度の濃い研修となりました。

●フロントサービス研修

顧客満足と人的サービスの重要性、表情、身だしなみ、電話対応、その他ビジネス動作・マナーの説明を受けました。終始和やかなかたちで進



められ、アスファルト合材工場におけるフロントサービスに置き換え、身振り手振りを交え、ご指導いただきました。現在多くの合材工場では、顧客との第一線での対応は女性が多くなり、産廃法令の知識や顧客対応の向上といったフロント対応も必須となってきています。普段疑問に感じていたことや、あやふやだったマナー等がはっきりし、また新たな気持ち・決意を持つことができる非常に貴重な研修となりました。



2014年情報化施工研修レポート

近年、情報通信技術分野における技術革新がめざましいなか、建設事業でもこれらの技術を活用し、施工の効率化が求められています。

大成ロテックでは、情報通信技術により自動制御された施工「情報化施工」を取り入れ、全国各地において普及に努めています。普及推進を図る一環として平成22年から毎年情報化施工の研修を実施、今年も7月に行われ、13名の社員が受講しました。

研修では、情報化施工の必要性、基礎知識といった講義から始まり、実習として、PCで専門ソフトを使用して基本設

計データや帳票を作成、また屋外ではTS（測量機器）の取扱方法や測定方法を学びます。講義、実習、最後には習得状況確認試験といったカリキュラムで情報化施工に対応した技術者の育成に力を注いでいます。

国土交通省は平成25年3月に「情報化施工推進戦略」を策定し、新たな取り組みを設定しました。

時代の変化に伴い、今後ますます導入と普及が期待される情報化施工。大成ロテックは、そのニーズに応えるべく技術の普及推進・人材育成を積極的に展開していきます。



研修を終えて



東関東支社 角張 晃士 さん

最初は情報化施工の意味すらわかりませんでした。しかし、研修をするうちに情報化とは電子情報を活用し、高効率で高精度な施工を実現できる素晴らしい物だとわかりました。

私が新入社員で初めて配属された現場も情報化施工技術を使っていました。当時は理解が伴わず施工に従事していましたが、今回の研修で理解することが出来ました。こうして一人ひとりがスキルアップすることにより、安全で効率的な施工に繋がることを実感しました。



関西支社 藤村 拓也 さん

今年、国土交通省の現場でマシンコントロール（グレーダー）とTS出来形管理を行うことになっています。少々の知識はあったものの、今回の研修で系統立てて講義を受けることが出来たのは勉強になりました。

情報化施工により、グレーダーが不得手なオペレーターでも綺麗に仕上げられ、又、工程が短縮されるなど、今後益々必要になるであろうと思いました。この研修を活かし、これから積極的に取り組んでいきたいと思えます。